

令和6年度 関市教育委員会会議 令和7年度使用中学校教科用図書採択理由

教科(種目)	発行者	採択理由
国語	光村図書	・各単元名の始めに、単元の「目標」を位置付けることで学習の見通しをもつことができ、単元の学習後、「振り返る」において、「知る」「読む」「つなぐ」の観点で学習評価ができるように位置付けられている。 ・3年間で、352コンテンツが位置付いており、古典の朗読、文法ワーク、国語の力試し等のコンテンツがあると共に、文字サイズの変更、書体の変更、分かち書き表示、フリガナ表示等、すべての生徒が学びやすくカスタマイズできるため主体的、多面的に学習ができるよう配慮されている。
書写	東京書籍	・1年生「身に付ける」2年生「使い分ける」3年生「使いこなす」として、それぞれの学年の最終的に目指すことがキーワード化されており、生徒の思考が結びつきやすいように工夫され、各学年において反復的・螺旋的に学び、確実な定着を図るという点でよく考慮されている。 ・学年が進むにつれて、学校生活から社会生活へと、他教科及び領域との関連を図った教材を組み込んであることで、国語はもちろん総合的な学習の時間や学活「キャリア教育」など教科横断的な視点が十分に組み込まれているものであり、よく考慮されている。
社会科 (地理)	東京書籍	・各単位時間では、導入資料、学習課題、本文の学習内容とそれを補う諸資料、振り返りといった紙面構成で、学習の流れが見える化されている。単元後のまとめの活動においても、単元の探求課題を軸にしながら、仲間と一緒に考えたり、個で学びを進めたりするような問いがバランスよく配置され、主体的・対話的で深い学びを促すために大変よく配慮されている。 ・138個の二次元コードが付され、映像資料やワークシート、統計資料など、多種多様なコンテンツが準備されており、生徒の主体的な学びが促されるよう配慮されている。

社会科 (歴史)	東京書籍	・歴史的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を育む手立てとして、歴史をとらえる見方・考え方について5点、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」として具体的で、多様な視点や内容を示し、丁寧に説明されているだけでなく、それらの視点が単位時間の追究の中で活用されるよう配置されている。 ・「個別最適な学び」が進められるよう、136個のQRコンテンツがあり、小学校で学習した内容が想起できるように導入クリップや動画をなどが位置付いている。 ・資料活用の視点を示すだけでなく、資料の読み取りの視点や内容を示すとともに、話し合い活動の着眼点を段階的に提示することで、より協働的な学習に取り組むことができる構成になっており、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進めていくための手立てがよく配慮されている。
社会科 (公民)	東京書籍	・政治参加の一つである選挙を大きく取り上げており、選挙の流れを確認できたり、「政治参加（投票率）」への意識を高められるようにしたりする構成となっていて公民的資質を育成できるようによく配慮されていると共に、すべてのページの左側中央付近にQRコードが示され、映像を通して理解を深めたり、用語を確認したりできるようになっており、知識・技能を高め、主体的に取り組めるようよく配慮されている。 ・主体的な学びのページが位置付いており、章の導入で示されたカードで、事例を選択して理由を考えたり、異なる視点で考えたりするなど、生徒が取り組みやすく、どの生徒でも一人で学び進められる内容となっており、主体的な学びとなるように、大変よく配慮されている。
地図	帝国書院	・地図、資料等が学習に十分な量と新しい情報が掲載されており、地図帳の基本的な使い方、地図からさまざまな情報を読み取り、それを活用する力を育むためによく配慮されている。
数学	東京書籍	・ページの右端に「問題をつかむ→見通しを立てる→自分で考えてみよう→問題を解決する→振り返る→深める」と単位時間の流れを示し、生徒自身で学習が進められるようになっている。 ・二次元コードから、自分の考えや仲間の考えを記述することができるワークシートやシミュレーションで実際に図を動かして考えることができるようなツールがあり、生徒の学習が、主体的・対話的で深い学びとなるようよく配慮されている。

理科	東京書籍	・探求の流れを追いやすくなっていること、見方・考え方の観点をキャラクターのセリフとして掲載されていることなど、深い学びにつながるように、よく配慮がされている。 ・考えを深める場面を取り扱う紙面では、異なった考えを持っている生徒が、それぞれの意見を発表しているイラストが掲載され、個別最適な学びと協働的な学びが具体的に示されている。
音楽（一般）	教育芸術社	・「音楽を形づくっている要素」の表記が、すべての教材において位置付けられ、「音楽を形づくっている要素」の働きに着目して、系統的・発展的に関連付けて学ぶことができる。 ・どの学年にも40個以上の二次元コードがあり、「動画」「音源」「創作ツール」「文章、ワークシート」という4つのアイコンで種別し、位置付けられている。歌唱領域の様々な曲の右下には、パート別やカラピアノの音源が位置づいており、生徒が自分で選択しながら練習することで個別最適な学習に活用できるようよく配慮されている。
音楽（器楽）	教育芸術社	・楽器の奏法については、9年間の学習のつながりを大切にし、これまでに学んだ楽器の奏法が紹介されていたり、加えて、新たな奏法も明記されていたりしているため、発展的に楽器の奏法について学ぶことができる。さらに、音楽科で身に付けられる資質・能力が一目で分かるよう、学習内容が明記され、教材と学習内容の関連も示されているため、生徒にとって、各学年相互の関連が一目で分かるようよく配慮されている。
美術	日本文教出版	・学習指導要領に示される「各学年の発達の特性」を踏まえて、教科書が1年・2・3年上・2・3年下の3分冊に分けられ学習目標も発達特性に沿って示されている。 ・QRコードは、全学年で107個掲載されており、題材の導入だけではなく、「技能」や「発想・構想」などに関わる資質・能力を高める工夫にも生かされている。また、生徒だけではなく、指導者にとっても、指導に役立てることができるようになっている。
保健体育	東京書籍	・単元全般において、指導過程が主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「みつける」「学習課題」「課題の解決」「？（知識・技能の習得）」「活用する」「広げる」6つのまとまりに分けられており、「見つける」の活動と課題が明確に示されていることで、1時間の見通しを持ちやすくなっている。 ・知識・技能が習得できるようなデジタルコンテンツが毎時間位置付けられており、デジタルコンテンツの内容に、導入、知識・技能、発展、他教科とのつながりなどがあり、個別最適な学びや協働的な学びにつながっている。

技術家庭科 (技術)	開隆堂	・身近な製品を例に挙げて、技術の役割、環境や経済性、科学や最適化、技術の見方、考え方や学習の流れ、さらには問題解決の流れが示され、これから技術分野を学んでいく生徒が、どのように学習を進めていくのかを理解し、主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。 ・ほとんどのページに二次元コードが備わっており、画面の配列もわかりやすく、より実践的な学びを深めることができるよう、よく配慮されている。
技術家庭科 (家庭科)	開隆堂	・単位時間ごとに自分の生活と関わらせた発問を示すことで、生徒の興味・関心から学習課題を設定し、「考えてみよう」「話し合ってみよう」等で他者との協働的な学びにつながるように工夫され、全10種類の実践例を示して実践しやすいようにしてある。 ・時代に合わせ、多様な家族関係の紹介や参考資料として身近な社会人の声の紹介も掲載されており、多様な家族観について学べるようよく配慮されている。また、キャッシュレス決済について「話し合ってみよう」と投げかけたり、商品の情報をどう扱うか、身近な例を使って話し合う活動を設定したりして主体的に学べるよう、よく配慮されている。
外国語	三省堂	・各 Lesson の各 Part で、英文の概要・要点を捉え、自分の考えを表現できる設問が設定されているため、新しい文法事項を学んだり、活用したりしながら、概要や要点を捉える力も身に付くようになっている。それだけでなく、その後に自分の考えを表現できるような構成になっていることで、様々な題材について書かれた英文を読んで自分の考えを表現できるという点で、大変よく配慮されている。 ・二次元コードを使用することで、教科書本文のアニメーションや、音声、文法の解説動画などの視聴や、イラストを活用した基本文の練習を行うことができる。家庭では、自分に合ったパターンを選択して繰り返し音読練習するなど、個別最適な学びを行うことが可能である。生徒が自分で学びを実感することができるようになっており、自ら学ぶ姿勢をつくる一助となっていることから、大変よく配慮されている。

道徳	日本文教出版	・学習の流れを「気づく」「考える・議論する・深める」「見つめる・生かす」の３つのステップで記載し、どんな学びをするのか、どんな生き方を大切にするのか、キーワードを示し、系統的に示している。また、実際にどのように学ぶのか、ミニ教材が位置づけられており、４月当初のオリエンテーションで活用することができるようによく配慮されている。 ・現代的課題として「いじめ問題」「情報社会」「自立と共生」「環境と未来」「安全な生活」を取り上げ、SDGs や多様性の尊重と関連付けて教材が扱われている。特に「いじめの問題」にかかわっては、各学年「いじめと向き合う」として、複数の教材とコラムでユニットを構成し、５月、９月、１月と年間３回、繰り返し「いじめ問題」と向き合い、考えることができるようよく配慮されている。
----	--------	--